



まぎの郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

August 2018

ソーシャル ファーム ピネル/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/けいじん舎/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター つれもて/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/おぎピース/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/叶夢向/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637 〒640-8301 和歌山市岩橋643 http://www.muginosato.jp



第41回障害者・市民の夏まつり 7.21 (土)



第24回 西和佐地区・麦の郷夏まつり 8.2 (木)



おどるんや ~紀州よさこい祭り~ 8.4 (土) /5 (日)



私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとめ、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



全国社会就労センター 総合研究大会(青森大会)に参加して

平成30年度全国社会就労センター総合研究大会に参加してきました。今回は青森大会のことで、遠路遙々青森まで行って参りました。今回は「社会就労センターの工賃向上・受注拡大をいかに実現するか」というテーマで大会は進みました。その中で「農福連携」をテーマとした報告が6割ほどを占めており、工賃向上に農福連携をうまく取り入れていこうという風潮が垣間見られました。報告として静岡県浜松市で農業を営んでおられる、京丸園株式会社の鈴木社長より講演がありました。京丸園さんは代々農業をされているそうですが、人手不足のため求人を出しているにもかかわらず、初めは断っていたそうですが、面接をした際に保護者の方から「給料はいらないので働かせてほしい」と言われたことに疑問を感じ、初めは1週間の受け入れのつもりから始まり、その後は1年に1人ずつ障害のあるスタッフを増やし、現在は24名を雇用しているそうです。会社では水耕部・農耕部より上に「心耕部」という組織があり、そこに障害のある方は配属され、部としては生産部門より格上



にいるために障害のあるスタッフに各部長は命令できないとのこと。その取り組みにとても感銘を受けました。また2日目の特別報告では、テレビや書籍などで「奇跡のリソ」として

著名な木村秋則さんの講演がありました。和の社でも木村さんの自然農法を取り入れている農家さんも何人かいらっしやるので、今回興味深く話を拝聴させていただきました。現在でも国内だけでなく海外にも自然農法を広めに活動しているとのこと、そのバイタリティにとても驚かされました。また、農福連携を進める活動もされているそうで、2020年の東京オリンピックに向けて、農と福が生産した自然栽培の材料を使って安全な料理を選手に食べてもらうという活動をしているそうです。木村さんの話を聞いて、確かに年中なんでも食材が揃い便利な世の中ですが、「なぜ」この野菜・果物が今ここで買えるのか。」「鳥は全て空から見ている。鳥のような目を持ってください」と仰った言葉を胸に刻み、もっと視野を広く持つて生きていこうと思いました。余談です

長3人、つほみ園の松本園長、通園らこの細野園長、こじか園尾崎で届けてきました。限られた時間内、お母さんたちの思いを訴えてきました。

昨年12月に内閣府が出した経済パッケージに「幼稚園、保育園、認定こども園の子どもの発達保育料を無償とする」「障害の子どもの発達支援の事業所は無償化をすすめていく」と書かれていました。無償が確約されていないことが分り署名活動をするようになりました。5月31日にこじか園、第二こじか園の保護者会の現役員、歴代の役員(2、3年前)がこじか園に集まり、署名活動をどのように行っていくのか話し合いました。お母さんたちはこじか園ができるまで、先輩保護者たちが街頭署名をして、こじか園が必要であることを社会の人達に訴えてきたことを学習会で聞いて知っていたのもあり、「街頭署名をしたい」「たくさんの人にこのことを知ってもらいたい」「障害の子ども達だけ差別だ」「幼稚園や保育所が無償になるとこじか園や第二こじか園を希望する人が少なくなり、なくなってしまうかも…」保護者にはいろいろな思い

なく、社会から遠ざけられてしまうことがあると聞き、もともともみなさんの話を聞いて交流を深めたいと思いました』『麦の郷の歴史について今回や別の日に職員さんの話を聞く機会がありました。その職員さんの話も同じエピソードの内容であり、ブレがないことに感じました。それほどみんなが同じ思いを持ちながら現在の麦の郷が存在している、みんなの思いがたくさん詰まっている所であると感じています』『研修を受けて自分に何ができるのだろうか？少しでも障害を持つている方が生活をしていきやすいよう、いろいろな人の考えを聞いていきつつ自分を成長させていきたいと思いましたが』『私が麦の郷に入って面白いと思ったことは、福祉の仕事は人と関わり支援を行うだけではなく、私たちの身近な生活、誰もが平和で豊かに生きるための権利にまつわる社会のしくみと真つ向から向き合い考えていく仕事だということだ』…素晴らしい新人職員のみなさん。ようこそ麦の郷へ！人を大切にすることをともに創っていきましょう。

(麦の郷教育研修委員会 江上 直子)

幼児教育無償化確約 署名活動について

7月20日(金)に厚生労働省に幼児教育無償化確約の署名75、327筆を、ひまわり園・こじか園・第二こじか園の昨年度の保護者会の会

がありまして。無償になっただけが問題ではなく障害があっても同じ子どもであるというこ



麦の郷へようこそ! 2018年度新人職員研修会

今年度の新人職員研修会は6月23日(土)10名が参加されました。麦の郷で大切に考えている①歴史と理念②人権と発達保障③障害の制度や施策についてそれぞれ3人の先輩職員が講師を務めました。新人職員ほとんどのの方が障害者支援の仕事は初めてのことですが、みなさんともまっすぐな眼をされていて、今後麦の郷を担っていく人材になってもらうために先輩職員は本気で「私たちのめざすもの」を伝えていかないと、と実感しました。

研修後のレポートから少し紹介します。『障害のある人が自立して生活できるように、例えば助けてほしいことをちゃんと伝えることができるようになってもらうこと、その人の持っている力や家庭環境を把握し、しっかりと関わり追求していくことを意識していきましょう』『周りから障害について理解される機会が少



と、障害があることで別に考えられていることが、保護者、職員が一番納得いかなないところですね。

こじか園、第二こじか園それぞれの前や駅前などで街頭署名を行いました。役員だけでなく、保護者に呼びかけ、暑い中でしたが、保護者が都合をつけて参加していました。時には卒園した先輩たちがかけつけて手伝ってくれたりもしました。街頭署名で「おかしい、協力するよ」と言ってくたさる方、署名用紙を「ピーして園まで集めた署名を届けて下さる方がいれば、「障害の子どもは特別な手当てをもらっているからしょうがないのでは」と言われることがあったり…保護者にとってはいろいろな思いをする街頭署名でした。



こじか園を卒園した先輩達から、協力の電話があったり、園に署名用紙を取りに来てくれたり、保護者のつながりを感じ、卒園しても協力してくれる人たちがたくさんいることが、署名活動をしている保護者の一番の力となったと思います。きっとこの経験がこれからの子育てにつながっていくことでしょう。

(こじか園 尾崎 由加子)

気楽な発表と交流の場

むぎピースカフェ&創作展

『きちやつてん!』

麦の郷和歌山生活支援センター隣 水曜不定期開店

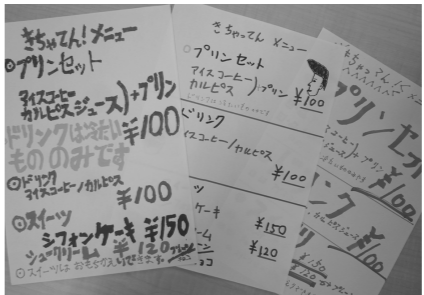


今年6月より、麦の郷和歌山生活支援センター隣(旧むぎ太)にて、作品展示と集いの場を兼ねたアートカフェ『きちやつてん!』をオープンしました。コーヒー、ジュースとシフォンケーキやプリンがいっしょに楽しめるドリンクセットや、シュークリームを提供している他、手作りの雑貨を販売しています。また、店内にはむぎピースのメンバーが日頃の活動の中で生み出した個性的な絵画作品を展示。作品は毎回少しずつ入れ替わり、メンバーの気楽な発表の場となっています。

描いては溜まっていくだけのメンバーの作品を、どうにかして世に送り出したい、みんなにも見てもらいたい。ついではお菓子も販売しよう!という思いで始まった今回の『きちやつてん!』。会計係と給仕係はメンバーが行い、果たしてうまくいくのか、お客さんは来てくれるのだろうかと不安な気持ちもありましたが、皆

様のご厚意にも支えられて順調なスタートを切りました。作品の感想を聞きに来るメンバー、仕事終わりの午後の一服、気になるあのひとと会える場所…。みんなでわいわい、時にはしっかりと語らう場所として広がり、時の兆しを見せつつあります。仲間たちと過ごす、ありふれているけど特別な時間。それを彩るお菓子や作品たち。『きちやつてん!』という空間に携わる一員として、来る人の心に根付く憩いの場所づくりを目指していきたいと思えます。皆様のお越しをお待ちしております。

(むぎピース 玉置 利紗)



授の呉秀三
—その足跡と実績を描いた記録映画『夜明け前』が企画されたのは数年前。藤井克徳きょうざれん専務理事から「数年後に、呉秀三の『私宅監置』の報告書が出されて百年になるのに合わせ、映画を考えてほしい」と要請を受け、勉強を始めた。この名言を知っていても、呉秀三という人の詳細は知らなかった…。改めて読んだのが藤井さんと麦の郷理事長田中秀樹さんの共著『わが国に生まれた不幸を重ならないために』精神障害者施策の問題点と改革の道しるべ』で、麦の郷に通い出してから13年が過ぎていた(映画「ふるさとをください」の製作の準備から)。そして、田中さんから借りた「精神障害者私宅監置ノ実況及び其統計的観察」(復刻版)を読んだ(これは明治の文語体で、とても読みにくい!)。この難しいテーマを担える監督を探して出て会ったのが、今回の今井友樹さんで、まだ30代後半の若いドキュメンタリストである。第1作の長編記録映画『鳥の道を越えて』(2014年)で実力を発揮していた。そこから、現在、形に残っていないものを、どう映像化するのか、スタッフの苦労が始まったのである。その成果が実ったものと確信している。

プロデューサー 有限会社イメージ・サテライト
中橋 真紀人



るま。まさに生活から湧き出た「ヘンテ」雑貨。そんな雑貨ひとつひとつにある物語を知っていただいて、買ってもらえたらラッキーだという思いで開催しました。

期間中は和歌山の方だけではなく、大阪や兵庫、京都からと遠方からのお客さんも多く、とてもにぎわった一週間でした。

何よりレジの担当を分担したり、期間中だけの「しょぼカフェ」。クローキングチンドンシヨールとチームポズックの絆がまた少し深くなったと感じられたとてもいい時間でした。

ご協力いただいた皆さまありがとうございます。
p o z z k k 奥野 麻美



『夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年』

上映運動が始まる

きょうざれん結成40周年記念映画

「我が国十何万の精神病者は実にこの病を受けける不幸の他に、この国に生まれたるの不幸を重めるものというべし」という鋭い提起を、今から百年前に投げかけた東大の精神科教

ポズック4周年企画

「ポズック雑貨展」

開催しました!



開所から4年。「得意を磨いて武器にする」をテーマに、日々それぞれが模索と前進を繰り返して活動してきました。

できないことや勘違いすることも多いけど、それは補い合う力を育てればそれがなにより。それぞれにある魅力的な部分を伸ばして輝かせる。それに尽きる4年だったと思います。

そこから生まれた雑貨のひとつひとつには、ポズックらしいヘンテコなエピソードが溢れています。例えば、穴あけパンチでチラシをパチパチあけるのが好きなたくみくん。

たまりにたまった穴あけチラシの山。そこから生まれたのが「穴あけパンチ耳かざり」。

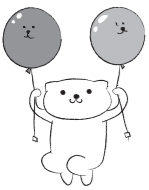
他にも電動工具好きな、たかさんが廃材から一人でつくり上げたデコトラック。

好きなキャラクターをモデルにしたカラフルな刺繍や、名物のだ



むぎ・わくわくレポート5

人間関係の不安から定期的に通所が難しく、来れるのは週1回ほどのメンバーさんがあります。他のメンバーも少し距離を置き、TVを観て過ごしたり、職員と1対1での関わりが多く散歩をしたり話をしたりしています。ある日のこと。メンバー数人で絵を描いていて、〇〇さん「絵を描いてみてよ!」と言ってみるとみんながいるテーブルへ。輪に入り「描けない」と言いながらも描いてくれたのが仮面ライダーと横浜銀蠅?のリーゼント頭のヤンキーのイラスト!なんともしュールでとっても味のあるイラストにびっくり!みんな「ええな!」とお茶目な絵に大笑い。普段見せないその人が滲み出ていたようで、そのなにも言えない穏やかでハッピーな空気感とは特別な時間のようでした。ちょっとした時間だけでもみんなが集い同じことで笑い合えることがとても嬉しかったです。どんなきつかけでも誰かと一緒に笑い合える時間を大切にしていきたい、そして少しでも「またいこかな」と思ってもらえる居場所となりたいと改めて思わせてくれる時間でした。



つれもて在職者交流会 in みなべ

障害者就業・生活支援センターつれもて

障害者就業・生活支援

センターつれもてでは、障害者雇用枠で一般就労されている方を対象とし、学習と交流を目的に年3回交流会をおこなっています。今年度1回目（7月3日）は、12名の参加者とスタッフ6名で、みなべの「紀州梅干館」で、工場見学や梅干しづくりに体験をしてきました。シソ味ハチミツ味など色々な味があり、自分でアレンジができ『世界にひとつだけの梅干し』が完成します。2週間常温保存すると食べ頃です。「梅干し食べた？美味しかったよ」と参加者から連絡があり、食べ頃になる日をカウントダウンしていたようです！交流会が初めての方もおられ、10代から60代と幅広い年齢層の参加者が一緒になり、「梅干しはやっぱり酸っぱくないとー」「味見しすぎて味がわからなくなってきたわ」とワイワイしている雰囲気ながらも微笑ましかつたです。



松岡 裕子

する方、外でソフトクリームを食べゆつくり過ごしている方...と短時間でしたが満喫することができました。

普段働いている職場へ何うと、真剣で一生涯懸命な姿を目にします。辛いことも時にはあり悩みもあり、でもそれ以上にやりがいを感じているからこそ継続した就労ができてきているのだと思います。帰りの車中で、「今日来てよかった。また明日から仕事頑張れるよ！」の声を聞くと、在職者交流会に参加したことで社会的視野が広がり、リフレッシュすることができ、お互いの想いを共有できる大切な会であることを改めて感じました。次の交流会が楽しみですよ!! (障害者就業・生活支援センターつれもて)

創の自主活動 みんなできつくる演劇部

創演劇部は、普段の何気ない話の中から出てきた、「演劇が出来たら面白いのではないかな？」というところから始まった活動です。月に1度、2時間程度時間を取って、持ち寄りた台本を読み合わせ

今年度の作品展示は「笑顔」をテーマに障害者支援団体や各支援学校に呼びかけを行い、たくさん作品を作成していただきました。全体企画では、会場で写真を撮ってもらい、平和の意味を込めハート型のモチーフを作りました。こちらも障害の有無を問わず色々な方々が写真を撮ったり撮られたりと盛況でした。また、今年の夏まつり開催にあたって準備を進めている中、大阪北部地震が発生し、7月上旬には西日本豪雨災害が起こりました。急遽、実行委員会でも何か出来ないかと話し合い、大阪の作業所の授産品を購入し、それを抽選会の特別賞にしました。豪雨災害に関しては、当日、義援金を募集し、沢山の方に協力をお願いできました。



せたり、即興で台本を作って読んでみたりしています。

また年に1度、立命館大学との交流合宿で発表するために、立命館の学生さん達の研究テーマに沿った形の劇を制作しています。



交流合宿で発表する劇では、普段の活動のうに気軽に劇を楽しむ、というところから一歩踏み込んだ、劇を見せるということを意識した少し本格的な取り組み方をしています。テーマには沿いつつも、何か新しい視点や切り口を提示できたり、物語としても面白いものを見せられたいすれば、と思つて活動しています。役になりきって、役の気持ちを考えて、声に出して演じてみる、掛け合いを試してみようという活動は普段しないものなので、難しく体力を使う部分もありますが、その体験をみんなで楽しめていると思います。

みんなで、と言つるのは演劇部を通しての大きなキーワードで、みんなの発想を取り入れて脚本を作り、みんなの意見を反映して修正を加え、みんなで劇としての完成度を高めていき、そして、みんなで一つの劇として完成させる。

誰か一人の力ではなくて、みんなの力があるからこそ出来る活動。そして、何かを作ってみたい！と思えるきっかけ作りの場にもなればという大きな目標として演劇部の活動をしています。(ハートフルハウス 創 下川 紘典)

夏祭り



第41回 障害者・市民の夏まつり

7月21日(土)和歌山城西の丸広場にて「第41回障害者・市民の夏まつり」が開催されました。

今回は「スマイル41あなたとわたしの夏まつり」というテーマで、実行委員32団体によって企画されました。

当日は、和歌山城西に響く西和中学校吹奏楽部のコンサートから始まりました。ダンスチーム「モンキー」による子どもたちの元気いっぴいのダンス、例年おなじみのポズック楽団による笑い溢れるちんどん、ラムネいっき飲み競争、青年学級の歌や、今年

年は青年学級とバンドの「コラボレーション」での「ねがい」の合唱、喜笑花による迫力あるよさこい演舞、最後はお楽しみの大抽選会と今年も盛りだくさんなステージプログラムでした。



今年度の作品展示は「笑顔」をテーマに障害者支援団体や各支援学校に呼びかけを行い、たくさん作品を作成していただきました。全体企画では、会場で写真を撮ってもらい、平和の意味を込めハート型のモチーフを作りました。こちらも障害の有無を問わず色々な方々が写真を撮ったり撮られたりと盛況でした。また、今年の夏まつり開催にあたって準備を進めている中、大阪北部地震が発生し、7月上旬には西日本豪雨災害が起こりました。急遽、実行委員会でも何か出来ないかと話し合い、大阪の作業所の授産品を購入し、それを抽選会の特別賞にしました。豪雨災害に関しては、当日、義援金を募集し、沢山の方に協力をお願いできました。

(麦の郷印刷 赤井 洋揮)

第24回 西和佐地区・麦の郷夏祭り

8月2日(木)に第24回西和佐地区・麦の郷夏祭りが行われました。私はサポートセンターの矢野さんと司会として参加させていただきました。人前に出るのが苦手な私は緊張してしまい、台本に頼りっぱなしでした。隣で常に落ち

着いて司会進行してくださった矢野さんには感謝です。プログラムは主催者挨拶、麦の郷みんなでおどり隊によるよさこい踊り、ポズック楽団によるちんどん、西和佐エプロンコーラスによる演奏、ビンゴゲーム、みんなで踊るぶんだら節、大抽選会と盛りだくさんでした。舞台上でのパフォーマンスはどれも素晴らしい、たくさん練習してきた光景が私の頭の中に浮かんでくるほどでした。屋台も様々な美味しいものが販売されていました。私は直接買いに行くことが出来ませんでしたが、差し入れていただいたコロッケと焼きそばはとても美味しかったです。



最後の抽選会の際に「ハワイに行きたいから!!」という声に対して、多くの方が声をあわせて返答してくれました。様々な場所に住み、様々な生き方をしてきた、様々な年齢の人たちが、一つの場所に集まり、一つになる。西和佐地区・麦の郷夏祭りの醍醐味を感じた瞬間でした。(ソーシャルファームピネル 勝山 陽太)



今年も参加してきました！ 第18回和歌山県障害者スポーツ大会

5月20日(日)に、第18回和歌山県障害者スポーツ大会(陸上)が紀三井寺競技場で行われました。

松本和晃さんが50メートル走に、宮本高志さんが立ち幅跳びに出場しました。宮本高志さんは立ち幅跳びで見事金メダルを獲得しました！

宮本高志さんは「来年も頑張るぞ！」と、すでに意気込んでおられます。(くろしお作業所 川崎 愛香)

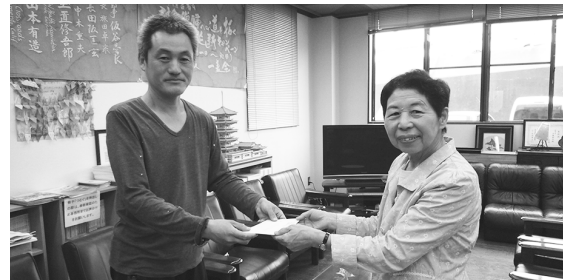


円応教紀の国教会の皆様から ご寄付を頂きました

今年も円応教の皆様からご寄付を頂きました。感謝の気持ちを忘れず、有効に使わせて頂きます。

円応教紀の国教会の皆様、本当にありがとうございました。

(ソーシャルファームピネル 山本 哲士)



グッズデザインコンクール入賞

おぎピース 植村さんの絵が『きょうされん第8回 グッズデザインコンクール』に入賞しました。しかも！その入賞作品がスマートフォンケースのデザインに採用、販売されています！！

ネット通販を中心にすでに販売中ですのでぜひチェックしてみてください。

販売ページは下記 URL よりお入り下さい。

<https://shop.pochicca.com/>

きょうされんのホームページからも見る事ができます。(おぎピース 岡本 悠)

絶賛発売中!!



植村さんからのコメント

僕の絵がスマートフォンケースのデザインに選ばれました。

タイトルは「春も夏もあるよ」です。

春や夏に会える虫さんやお花たちがいっぱいです。

ぜひ買って使ってください。

お願いします。



紀の川生活支援センター
京谷 和子

麦の郷紀の川生活支援センターの京谷和子(きょうたに わこ)です。センターに入り4年目になります。センターでは、相談支援専門員として従事しています。紀の川生活支援センターは、那賀圏域にある二つの基幹相談支援センターの内の一つです。基幹相談支援センター事業や地域活動支援センターI型事業、また指定特定相談支援事業や指定一般相談支援事業を行っています。文字だけ見るとさっぱり理解できませんが、障害のある人や家族からの相談に応じて、地域で安心してその人らしい生活を送れるよう支援をおこなっている所です。

センターは、障害のある方だけではなく、そこで働く職員も笑顔で過ごせる居場所となっています。毎日大きな笑い声が聞こえてきます。悩んで暗い顔で相談にこられる人も帰りには笑顔になっています。人と人が支え合うことの大切さを教えてくれた職場です。支援者や利用者という枠ではなく、これからも地域で共に暮らす「仲間」として一緒に歩んでいければと思います。